

温泉地の温故知新

-持続可能な温泉地を目指して-

東洋大学 国際観光学部国際観光学科 内田ゼミ

山田 常葉 安里 日和



目次

1. ゼミナール活動

- ゼミの研究テーマ
- 研究目的
- 研究活動の流れ
- 対象地域と課題の設定
- 活動内容

2. ゼミ活動から学ぶ

- 温泉地の魅力
- 温泉地の課題
- 若者世代が取り組めること
- ゼミで温泉を学ぶことを通して

3. 参考文献

1.ゼミナール活動

研究テーマ 「過去と未来の温泉地を紐解く —温泉地の温故知新—」



研究目的

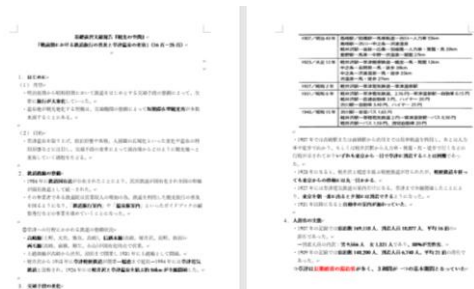
温泉地を対象に地域の形成過程及び宿泊業の展開を調査することを通して、
観光地の現状と課題について学ぶゼミ

- ① 温泉資源を学ぶ
- ② 地域の課題を学び、課題解決に取り組む
- ③ 課題解決を目指してーコンテストや卒論に取り組むー

ゼミ活動の流れ

4年 温泉調査 別府・由布院

3年 秋田県湯沢ジオパークカレッジ



文献輪読



2年

文献輪読
フィールド
ワーク
コンテスト企画

事前学習

3年

- ・文献輪読
- ・フィールドワーク
- ・卒論準備

4年

- ・卒論調査
- ・卒論執筆
- ・卒論発表会



2年 石川サテライトキャンパス



宿博覧会



旅の図書館



内田ゼミ合同卒論報告会

対象地域と課題の設定

年度	2年	3年	4年
2023	諏訪温泉（長野県） （諏訪市観光課）	小安温泉郷（秋田県） ゆざわジオパークカレッジ	道後温泉（愛媛県）
2024	加賀温泉郷（石川県） 石川県サテライトキャンパス	小安温泉郷（秋田県） ゆざわジオパークカレッジ	開催無し
2025	加賀温泉郷（石川県） 石川県サテライトキャンパス	小安温泉郷（秋田県） ゆざわジオパークカレッジ	別府温泉郷（大分県）



東洋大学

国際観光プランニングコンテスト



ゆざわジオパークカレッジで発表



卒業論文

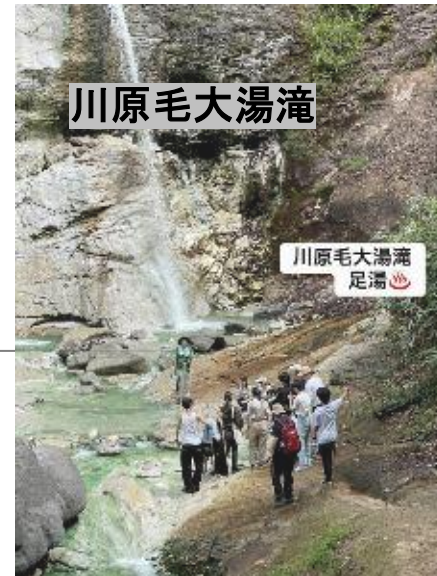
① 温泉資源を学ぶ

秋田県湯沢市 ゆざわジオパークカレッジ

温泉が自然資源であり、観光資源化して利用されていくことを理解していても、実感としてそれを学ぶことは困難

⇒実際に自分たちでまちあるきを行い、温泉を取り巻く数々の産業を体験することで「温泉地とは何か」を学ぶ

3年次では「見えない火山」をテーマにした秋田県湯沢市のジオガイドの方々から温泉という自然資源の特徴を学ぶ



温泉を取り巻く産業・文化を知る



② 地域の課題を学び、課題解決に取り組む

事前調査で地域について文献などを調べて理解したつもりでいても実際に現地に行くと、自分たちが「知らなかった」ことを知る

⇒**現地調査**と**文献調査**の**両方**が必要不可欠である

現地調査でお世話になった地域や施設に、自分たちの学びや研究を還元することを目的とし、課題解決に取り組む。



2023 諏訪の観光政策
諏訪市役所の方々から



2024 山中温泉 温泉地の文化
べにや無何有の女将さんから



2024 小安峡温泉
女将会の方々と意見交換会



2024 小安峡温泉
農産物直売所の方々と交流



2025 由布院駅見学
由布院まちづくり観光局事務局長から



2024年 ワークショップ 湯沢市・小安峡温泉の地域活性化提案



湯沢市ジオパークガイドの方々と議論しながら現状分析・課題発見



2024年 湯沢ワークショップ SNSを使った情報発信の課題と可能性



③ 課題解決を目指して コンテストや卒論に取り組む



旅ガチャ IN SUWA ～#の旅で知る諏訪の魅力～

東洋大学 国際観光学部 国際観光学科
内田彩ゼミナール



諏訪市の現状

客層： 50代以上の男女

立地： 諏訪湖を中心として自然環境に囲まれている

アクセス： 東京から電車で約2時間(車利用も約2時間)

東京・関東(42%)からの日帰り客(90%)が多く、夏季に集中している



出典:コトバンク

令和元年 諏訪市観光案内所来訪者年齢層割合 (日本人)

(諏訪市観光案内所受付データより)



諏訪市観光入込客数 (日帰り・宿泊) の推移

(令和元年諏訪市観光動態要覧より)



出典:『諏訪市観光グランドデザイン』(諏訪市)

課題・提案

◎課題

- ・魅力はあるが訴求力が不足
- ・訪問経験+イメージが低い(若者を中心に)
- ・人材不足(観光課、地域づくり)

◎課題解決への提案

SNSで情報発信・拡散して魅力を伝える
諏訪を発展させる**人材**が増えるようなきっかけをつくる

背景 フィールドワーク

- ・諏訪の代名詞がない
- ・若年世代の 観光客確保が目標
- ・人材を活用できていない
- ・地域活性化の補助金などを用意

観光課



企画提案

諏訪の魅力発信と観光人材育成に注力！

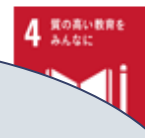
観光客による観光客のための「#」による情報発信

【流行】第4次**ガチャガチャブーム**

低価格・誰でも気軽に・楽しめる・海外でも人気

諏訪ガチャで諏訪の魅力を伝える
仕組みを作る

秋田県湯沢市 それ湯け！温泉探検隊～小安峡の秘密をさぐれ～



見どころ！ここがポイント！

- ・大噴湯は自然の迫力を肌で感じることができ、温泉の仕組みや小安峡の成り立ちを実感できる。
- ・ジオスタは火山活動や地層、温泉の仕組みを展示や模型で詳しく学ぶことができます。
- ・かるた作りは言葉や絵としてアウトプットする力が付き、湯沢愛と並行し想像力も豊かになる。
- ・川原の湯っこは足湯や温泉たまごなど温泉の良さを五感で感じることができます。
- ・クイズ大会は知識を整理し、理解を深めながら旅行を最後まで楽しむことができます。
- ・全体を通して、見る・聞く・感じるなど生徒主体の旅行になるため学びが定着しやすいです！！

湯沢市小安郷温泉を 対象に教育旅行を企画



小安峡大噴湯
(湯沢たび公式観光サイト)



ジオスタ☆ゆざわ
(秋田湯沢の観光Navi)



川原の湯っこ
(湯沢たび公式観光サイト)



川原毛地獄

プログラムの内容

小安峡大噴湯からスタート！迫力ある噴湯を間近で観察します。五感で味わうことで、より深い学びが得られます。「ジオスタ☆ゆざわ」では、火山や温泉発生のしくみを模型や展示物を通じての学習、「川原の湯っこ」では、スコップで川底を掘ることで自分だけの足湯をつくる「足湯づくり体験」を行います。地熱を肌で感じ、温泉が湧く不思議さを実体験することで、自然エネルギーへの理解が深まります。学びの最後には、ジオスタの体験ルームで「湯沢温泉かるた」作りを実施。自分たちの言葉と絵で温泉にまつわる知識や印象を表現し、学んだことを形に残すことで表現力や想像力の育成に繋がります。

事前学習

- 小安峡温泉周辺の動画視聴（約15分）
→川原のゆっこ・湯沢市観光ガイド・大噴湯等
- 小安峡温泉の文化・魅力を調べてみよう
- ジオスタ☆ゆざわでの質問を考えよう
→ワークシートに記入

現地学習

- 事前学習ワークシートをもとに
- ジオスタ☆ゆざわで湯沢の地形や温泉、自然、文化を学習しよう（約120分）
- 川原の湯っこで足湯作りを体験しよう（約120分）

事後学習

- 湯沢で学んだことや感じたことを整理しよう
- グループでポスター、クイズを作成し発表しよう

受け入れ人数

約30名
・クラスごとに行動
・1クラス15人程度を想定

対象

近隣の県に在住する小学生4～6年生

受け入れ時期

秋(10月～11月平日)

備考

悪天候時：プラン変更可
(屋根付きの足湯や室内での伝統工芸体験)

休養期間

1泊2日



ナイトマーケット in 山代温泉 ～加賀の魅力を夜まで満喫～

東洋大学 国際観光学部 国際観光学科 内田彩ゼミナール

山代温泉とは

- ・ 加賀温泉郷にある4つの温泉のうちの1つ
⇒ 山中・**山代**・片山津・粟津
- ・ 2025年開湯**1300年**の歴史を持つ
- ・ **総湯** (共同湯：地元・観光客利用)
古総湯 (明治時代を復元) の2種類
- ・ **山代大田楽**が伝統文化として根付く



地元の人の声

若者やインバウンド客が少ない
客が夜にわざわざ総湯に行かない
⇒ 総湯に賑わいがない

【現地調査の結果】

- ・ 若者やインバウンド客が少ない
- ・ 活用されていないスペースが多い
- ・ 閉まっている店が多い
- ・ 街灯が少なく道が暗い

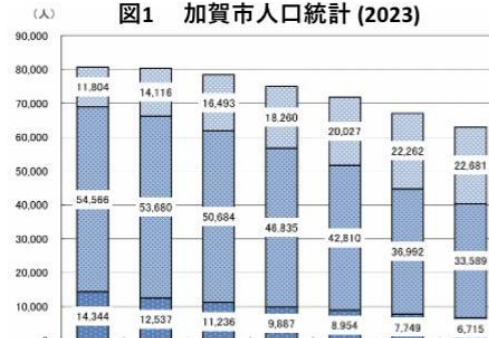


夜の総湯付近 (2024.11)
古総湯前の「はづちを楽堂」は人影なし

加賀市の現状

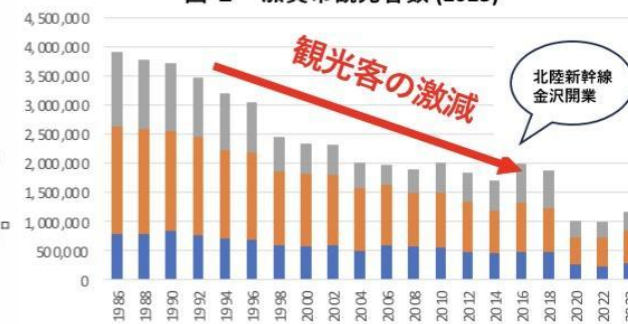
- ・ 人口：63,109人 (2023)
⇒ 総人口は年々減少し、少子高齢化が顕著
- ・ 生産年齢人口の減少から人手不足が課題

図1 加賀市人口統計 (2023)



出典：加賀市HP 『加賀市観光統計』より

図2 加賀市観光客数 (2023)



出典：加賀市観光統計より筆者作成

企画提案

「総湯×ナイトマーケット」
ナイトタイムを利用し加賀の魅力を伝える



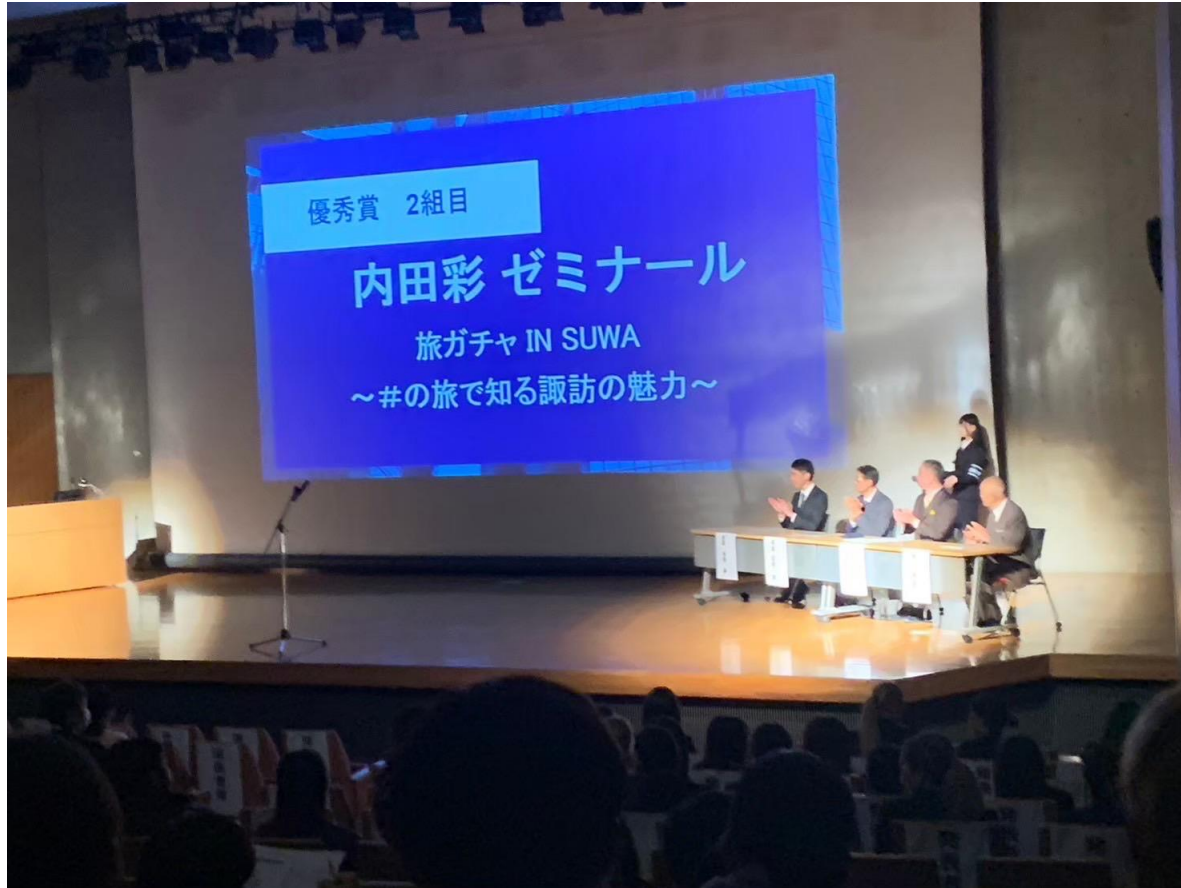
出典：山代温泉観光協会

◎ まちのシンボル**総湯**周辺で
ナイトマーケットを開催

◎ ナイトマーケットにて、**加賀の魅力**を
伝える場を創出

◎ インターンシップとして**若者**を誘致

2023 東洋大学国際観光学部
観光ビジネスプランコンテスト
優秀賞



2024東洋大学国際観光学部
国際観光プランニングコンテスト
最優秀賞



卒業論文

各自で好きなテーマを選び、4年次の春から文献・現地調査を行い、12月の完成に向けて執筆を行う。



2. ゼミ活動から学ぶ

温泉地の魅力

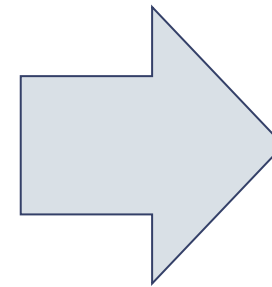
①心身をリラックスできる「癒し」と「アクティブ」な体験のどちらも楽しめる

《癒し》

- ・ 自然の中で穏やかな時間を過ごし、疲れを癒せる
- ・ 美肌効果など、美容面での効能が魅力的

《アクティブ》

- ・ その土地ならではの文化・歴史・伝統に触れられる
- ・ ご当地グルメや温泉地特有の食文化を楽しむ
- ・ 温泉街を散策し、浴衣姿で写真撮影を楽しむ



非日常的な体験

②友人や家族と親密な時間を過ごせる

温泉地の課題

① 人材不足・後継者不足

→温泉地で働く人材や、地域のまちづくり・観光業を担う地域中核人材の育成が必要

② 温泉資源の保護と管理

→過度な採取を続けてしまうと、湧出量の減少や源泉の枯渇の危険がある

③ 自然環境と景観の保護

→バブル期の大規模開発により、景観破壊・個性の喪失

現在も廃業旅館の跡が目立つ地域がある

④ インバウンド対応

→入浴マナーの案内やタトゥーへの理解と対応

若者世代が取り組めること

① SNSや口コミを通じて周囲に温泉を「発信」する

- ・ 実体験をリアルに共有することで関心を高める
→ 写真、動画、位置情報を活用

- ・ 口コミを通じて 新たな観光需要 を生み出す

② 「温泉+α」の提案をする

- ・ 温泉地の飲食店や体験スポット、自然と組み合わせて 新しい楽しみ方 を考える
- ・ 旅行会社や地域と連携し、若者視点のイベントやスタンプラリーなどの アクティビティ を創出する

ゼミで温泉を学ぶことを通して

①温泉まちづくりによる**地域再生**

→地域の魅力や文化資源を活かし、独自の地域ブランドを形成

②持続可能な地域モデルへの転換

⇒地域の自然・歴史・文化を守りつつ、多様な滞在型観光を推進

⇒住民・行政・観光事業者の三者協働によるまちづくりで

地域経済と暮らしを豊かに

⇒SNSでの発信を通して、DX化にも対応する



持続可能な温泉観光地を目指せるのではないか

3. 主要参考文献

阿岸祐幸編（2012）『温泉の百科事典』丸善出版

内田彩（2013）「滞在型観光」『観光学全集4 観光行動論』原書房

内田彩（2023）「“観光を学ぶ”ということ：ゼミを通して見る大学の今(第16回)東洋大学国際観光学部国際観光学科 内田ゼミ」『観光文化』47(1)号、pp.54-57、公益財団法人日本交通公社

十代田朗（2010）『観光の新しい潮流と地域』放送大学

日本温泉文化研究会編（2011）『温泉を読む』講談社.

前田勇（2018）『新 現代観光総論 第2版』学文社

山村順次（1998）『日本の温泉地：その発達・現状とあり方』日本温泉協会

若者が温泉地に魅力を感じない要因

- ①「温泉＝年配の方の楽しみ」というイメージが根強い
- ②レジャーの多様化により、「温泉」が選ばれにくくなっている
 - ⇒推し活、ライブ
- ③温泉よりも友人どうしで盛り上げられるアクティビティを選びやすい
 - ⇒キャンプ、BBQなど
- ③メイクや髪型が崩れるなど、外見を気にするため
- ④タイパ・コスパ重視
 - ⇒移動や宿泊を伴う旅行よりも手軽な娯楽を好む
- ⑤「入浴」への嫌悪感
 - ⇒「風呂キャン界限」という言葉が誕生し

若者世代の視点から見る傾向推察

旅行先として温泉地を選ぶ際の決め手

- ① **周辺観光**の充実度
⇒温泉以外にも楽しめる観光地・体験スポットがあるかどうか
- ② **アクセス**の良さ
⇒費用、日程、移動時間を考慮してより行きやすい場所を選ぶ
- ③ **温泉街**の魅力度
⇒周囲に飲食店や食べ歩き可能な店が豊富だと人気が高い
- ④ **SNS映え**要素
⇒InstagramなどのSNSで下調べをしたり、口コミや投稿数、評判の良さが決め手になる傾向も強い



温泉だけではない、＋αの体験が必要不可欠なのではないか